

歌劇

天空の町

（別子銅山と伊庭貞剛）

台本・作曲／石多 エドワード

●とき 二〇一三年

二月十六日（土） 十七時半 開演

（開場 十七時）

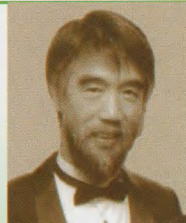
●ところ

サンパール荒川 大ホール

困難な道と安易な道―私はどちらの人生を選びたいのか？
まっすぐ誠実に向かい合おう。きつと分かり合えるはずだ。

【主催】NPO法人東京オペラ協会 公益財団法人荒川区芸術文化振興財団
【共催】荒川区
【後援】歌劇「天空の町」を世界に贈る会
【協賛】帝人株式会社、株式会社サンコナ
【協力】全国オペラブラザグループ

新居浜市 旧別子 蘭塔場
撮影：田尾忠士



総監督 石多 エドワード

本日はお寒い中、ご来場いただき有難うございます。
この歌劇「天空の町―別子銅山と伊庭貞剛」の作成には、二〇〇七年に故藤田洋子さんに依頼されてから上演に至るまで、五年の歳月を要しました。

この間「伊庭貞剛」という人物と向き合いながら、日本人が本来持っていた精神のすばらしさ（清貧、謙遜、思いやり、自然への畏敬の念、武士道など）を現代の日本人に想起していただきたい、又海外の方々にも深くご理解いただきたい、という気持ちが大きくなりました。

これまで当会は国際交流による世界平和への貢献を目的とし、内外の作曲家など、色々な分野の芸術家と共同してオペラを創り、公演してまいりましたが、今回は「日本の歌劇」を目指し、台本、作曲の全てを私が作りました（オペラ編曲やピアノ伴奏編曲には色々な方のご協力を頂いております）。そして昨年五月、地元（四国、新居浜市）実行委員会のご協力により完成し、そのご尽力により、新居浜市市民文化センターにおける公演は二公演で二千人というお客様を迎える事が出来ました。

伊庭貞剛の「晩晴」に至る成長を様々な角度から描き歌い上げ、これからも内外に発信したいと切望しております。しかしながら、まだまだ改良すべき点が多々あるかと思えます。この歌劇を成長させるべく皆様の叱咤激励をお待ちしています。



指揮者 西谷 亮

指揮を杉山直樹氏、シメオン・ピロンコフ氏に、和声・作曲を伊藤康英氏、音楽一般論などを井崎正浩氏、トランペットを松本浩太郎氏、北村源三氏、コンラディン・グロート氏に師事。ウイーンおよびクロムシュ（チェコ）における国際指揮セミナーに参加。上野学園大学主催「下野竜也による指揮マスター・コース」に参加し、下野竜也氏に師事。修了演奏に選出され、上野学園大学管弦楽団を指揮する。オーケストラアンサンブル金沢主催「井上道義による指揮講習会」にて、井上道義氏に師事し、評価を得る。二〇一二年からオペラ制作の場にも活動の幅を広げている。現在、プロダクション・フィルハーモニック・オーケストラ 音楽監督兼常任指揮者、東京シティオペラ協会 副指揮者、東京オペラ協会管弦楽団 指揮者、東京シティオペラ協会会員。

あらすじ

■プロローグ

別子山に秘めやかに咲く花と深い緑の木々が優しい歌を歌っている。そこに旅人がやって来て、活気付いていた往時の別子山を蘇えらせる。

■第一幕・・・弘化四年（明治二七年）（一八四七年）（一八九四年）

別子山で働く女たちが、庶民的に、日本のいい男ってどんな人？と問いかねながら物語は進む。別子山の昔からの生活の様子、切り上がり長兵衛による銅山の発見、広瀬宰平の指導力による繁栄、それらが次々と展開して行く。

一方伊庭貞剛は、二十二歳の時尊敬する勤皇の志士、西川吉輔の要請で動乱の京都へと旅立ち明治維新以後は、官吏の世界で働く事となる。そして松と結婚するが、北海道での勤めについて行つた松は、無理がたり、はる子を残し早世してしまう。やがて後添えに梅子をもらい、伊庭は仕事へと邁進して行く。しかし天下・国家を考えて行動してきた正義感溢れる伊庭にとって、墮落した藩閥政治の官界はもはや自分が住むべき世界でないと考え、きっぱりと止めてしまう。そして故郷に帰り、家族との束の間の団らんを楽しむ。

その頃、住友の発展のため優秀な人材を探していた広瀬は、伊庭を住友の本店支配人として誘う。伊庭は住友に勤めながら、日本初の衆院選で当選するも、政治の世界にも失望して、やはり止めてしまう。そして、煙害で大変な状況にある別子銅山に、単身向かうことを決意する。

■第二幕・・・明治二七年（大正一五年）（一八九四年）（一九二六年）

火中の栗を拾うが如く、荒れ果てた別子山に来た伊庭貞剛。自然が徹底的に破壊された別子山の嘆きの声を深く抱きとめながら、過酷な労働に苛立つ鉱夫たちとの危険な折衝にも、誠実に粘り強く向き合い、解決に導く。煙害を無くす為に、四阪島に製錬所を移転する決定を下し、山を緑に戻すため、年間百万本の植林をするなど、次々と実行してゆき五年後、ほぼ解決を見、大阪に帰って行く。

労使紛争の解決、煙害の克服、別子山の緑化、など全てを熟慮、祈念、放下、断行し、ついに解決に導いたことを、帰阪しに誇らしげに報告する伊庭に、信頼する義山和尚の「世の中まじめに観てな」の一声。やがて、自分の成功は、難しい事務作業に一生を捧げてくれた部下、別子銅山で働いた多くの鉱夫やその家族、そして大自然からの恩恵があつて初めて出来たことなのだと気づき、義山和尚に改めて感謝する伊庭。別子山を緑に戻せたことを謙虚に感謝する伊庭に、「晩晴」を見出す。日本人の本来の心、清貧、陰徳、謙虚、素朴、無為自然、自然賛美、などにこそ世界へのメッセージがあると、死を前にした伊庭が静かに語る。

■エピローグ

別子山がもう一度静かに大きく浮かび上がる。自然こそが神だ、と旅人は語り、微笑みながら去ってゆく。最後には、別子山に生きるすべての命がもう一度元気に甦り、大自然に抱かれることの幸せが大合唱で歌いあげられて幕となる。

関連年表

一六九〇	切り上がり長兵衛により別子銅山が発見される。
	田向重右衛門、調査し、住友本社に報告
一六九一	採掘、製錬開始
一八六五	広瀬宰平、別子銅山支配人となる。
一八六八	官軍により一時封鎖。事業継続を懇願、許可される（明治元年）
一八七四	フランス技師ラロックを雇用
一八七六	塩野門之助を留學派遣
一八七七	広瀬、住友家初代総理事となる。
一八七九	伊庭貞剛、広瀬に勧められ住友入社。五月本店支配人となる。
一八八六	塩野門之助、住友辞職。足尾銅山へ行く。
一八九〇	伊庭、日本初の衆院選挙当選
一八九三	別子に専用鉄道完成。農産物被害、煙害問題発生
一八九四	伊庭、本店支配人のまま、新居浜に赴任
一八九五	伊庭、植林に力を入れる。塩野門之助、新居浜着任
一八九七	四阪島製錬所建設に着手
一八九九	伊庭、住友総理事として本店へ帰任（一月）
一八九九	大水害のため、旧別子施設大破（八月）
一九〇五	四阪島製錬所完成。操業開始。農産物被害広域化
一九一〇	煙害賠償決定
一九一四	広瀬死去（大正三）
一九二六	伊庭死去（大正一五）
一九三六	四阪島に中和工場完成
	煙害問題解決（昭和四一）
一九七三	別子銅山閉山（昭和四八）

伊庭を取り巻く人々



広瀬幸平(ひろせさいへい)

伊庭の叔父で住友初代総理事。明治維新で官軍に接収された別子銅山の移住権を新政府に認めさせ、一部重役の経営難を理由とした売却案に断固反対し、フランス人技師を招いて別子銅山の近代化を推進する。又、塩野門之助をフランスに留学させるなど、鉱山技師を養成、外国資本に頼らず別子近代化を達成した。

蔵田 雅之

東京芸術大学と大学院を修了、文化庁芸術家在外研修員としてミラノにて研鑽。一九八五年から九〇年の在欧中に、ハイル・ほほえみの国のタイトルロールなどにミューンヘン、ウィーン、フタバストの諸都市で活躍。国内では五十作品のオペラのテノールの役柄を演唱。最近ではアル・イダ、イドメネオなどドラマティックな役柄でも成功している。フェリス女学院大学教授二期会会員。



梅子(うめこ)

松の死後、伊庭の二子に嫁いでくる。気丈な人で、はる子を含め十人の子、母田鶴子の世話をし、家庭を守る。

石多 加代子

私たちの生活の為、又社会の要請や時代の流れの中で、人類は自然を傷めて来てしまいましたが、それは仕方がなかったかも知れません。しかしその方向が間違っていたと認識した時の伊庭の煙害に向き合う真摯な姿勢には、感動を覚えます。そして現在起こっている原発の問題でも、この様に真摯に向かい合って欲しいなと思います。



吉井 美幸

松(まつ)

伊庭の最初の妻。体が弱く、娘はる子を残し、若くしてこの世を去る。



田鶴子(たづこ)

伊庭の母、広瀬幸平の姉。

鈴木 のぞみ

聖徳大学短期大学部音楽科卒業。佐藤宏之、佐藤あけみ両氏に才能を見出され学生時代より音楽を師事。イタリアにて、元スカラ座トレーナーのA・ベルタッキ氏に師事。モーツァルト作曲オペラ「魔笛」ババゲーナ、モーツァルト「レクイエム」ソプラノ、ゴッティ国際交流音楽祭などその他コンサートに数多く出演。また近年ではシニアミュージカルの指導にも力を入れ始めて住。茨城県つくば市在住。



西田 直人

塩野門之助(しおのもんのすけ)

フランスの鉱山技師ラロックの通訳として、住友に入社したが、後日、鉱山技術を学ぶ為、住友よりパリに留学。帰国後、別子銅山技師長となる。その後広瀬と意見が合わず、足尾銅山に行くが、伊庭の要請で再び別子銅山に戻り、伊庭と共に、亜硫酸ガスによる煙害をなくそうと奔走する。



結城 孝一

住友友純(すみともともひこ)

住友一四代家長。伊庭に請われ、貴族の徳大寺家から養子婿として住友に入る。長兄に徳大寺実常、次兄に西園寺公望、を持つ、徳大寺家の六男。



大島供清(おおしまともきよ)

住友の役員。広瀬と意見が合わず、退職。

奥村 泰憲

広島少年合唱隊出身。エリザベト音楽大学音楽声楽卒業、同大学大学院修了。二〇〇五年よりウィーン国立音楽大学(声楽、フルート)で研鑽を積む。二〇〇六年ウィーンでジュゼッペ・マタイ受、難曲「イエス役」でリスタート。またウィーンシュタット劇場でグルック「トリート」のイフェジエネー・トラス王を歌いオペラデビュー。二〇〇九年はジュゼッペ・テ・サ上七の言葉、パッハ「ルターミサ」長調を指揮し指揮者デビュー。



伊庭貞剛(いはていこう)

石多 エドワード

環境対策の先駆者。人心と共に荒廃していた別子銅山を、万難を排して自然に還した日本のますらお。



品川彌一郎(しながわやじろう)

伊庭の心友。明治の政治家。独協大学の前身、独逸学協会学校を開設。とんやれ節の作詞者。



嶺山和尙(がさんおしょう)

臨済宗の僧。伊庭よりも年下ではあるが、一番の相談相手。特に尊敬した友人。



寺嶋 繁久

小川治兵衛(おがわへい)

当時、日本最高の庭師と云われた人。



相良 伸介

切り上がり長兵衛(きりあがりちやうへい)。元禄三年、時の支配人田向重右衛門に別子銅山の鉱脈を見つけて進言した人。流れ鉱夫で、日本中の鉱山で鉱夫として働いていたらしい。



飛田 恵悟

田向重右衛門(たむけじゅうえもん)

住友古銅銅山の支配人の時、切り上がり長兵衛から別子山の鉱脈の存在を聞き調査した。その結果、住友は江戸幕府に開坑出願する。



旅人

世界中を飛び回って、旅をしている。別子銅山の歴史を花たちとともに振り返る。この話の案内人。

大地

自然が生み出す複雑に織りなされた世界は、本当に美しく畏敬の念を抱かすにはあられませんが、我々人間にとだけのこと表現出来るのでしょうか？せめてその一端でも日々稽古に励んでおります。この公演が決まってから荒川の街を沢山歩きました。この素晴らしい街で歌えることを大変嬉しく思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

出演者

伊庭貞剛…石多エドワード
 旅人…大蔵雅之
 梅子…石多加代子
 松鶴子…吉井美幸
 森の精・隆子…鈴木のぞみ
 敏子…藤澤美保
 幾久子…湊真帆
 塩野門之助…西田直人
 住友友純…結城孝一
 品川彌二郎…徳田春良
 大島供清…奥村泰憲
 巖山和尚…福島羊一
 小川治兵衛…寺嶋繁久
 切り上がり長兵衛…相良伸介
 田向重右衛門…飛田恵悟
 女たち…灘ゆかり
 本多加世子
 精たち…山下真帆
 坂田直子
 秦美智世
 原田恭子
 藤澤美保
 品川の娘…佐藤穂乃花
 仲濱美海

スタッフ
 照明…長澤宏朗
 映像美術…浦島啓
 ヘアメイク…佐藤てい子
 舞台監督…廣田修

欽夫・事務員・役員…

相良伸介
 大嶋繁久
 寺嶋春良
 徳田修
 廣田一興
 花・樹木・別子山の民衆…
 佐々木利奈
 佐藤つとむ
 白濱律雄
 清水幸子
 田島孝子
 谷本和美
 仲濱美海
 伊庭の子供・動物…
 石井愛理沙
 石井大輝
 国生陽美
 国生元哉
 鈴木みそら
 達富楓
 張美稀
 土岐花寧
 土岐心結
 野原彩未
 秦美代子
 米村茜
 林亜芳



東京オペラ協会管弦楽団有志

ヴァイオリン
 高須昌緒(賛助)
 長原真記子(賛助)
 村井薫(賛助)
 古屋孝訓(賛助)
 大庭笑由子(賛助)
 七田祐子
 増田有紀
 高柳恵里
 肥後将
 阿部亜紀
 小松慎吾
 高橋賢太郎
 青山真由美
 坂井あさ(賛助)
 小嶋洋一
 八木巧次
 下里猛雅
 八島優(賛助)
 千葉祐佳(賛助)
 竹井誠
 杵家七三
 佐藤里美
 フアゴット
 ホルン
 トランペット
 トロンボーン
 パーカッション
 エレクトーン
 尺八・篠笛
 箏

日本舞踊

花柳和代衛
 二見ユキ子
 田島孝子

伊庭貞剛の人物像

明治二六年(一八九三)、硫黄分を多く含む銅鉱石の製錬で生じるガスが原因で、別子の山々や新居浜近郊の田畑・山野が枯れるという大きな煙害が発生していました。加えて農民や労使の紛争という、内憂外患の別子銅山に存亡の危機が迫っていました。明治二七年、四十八歳の伊庭貞剛は、母の弟で叔父の別子銅山支配人、広瀬幸平の要請で、問題解決のため支配人として単身で着任します。別子全山、木のない荒れ果てた姿に大変心を痛め、「天地の道理に反する」として、ただちに山林復旧の壮大な植林事業、すなわち毎年百万本、多い年は二百万本を超えるという植林に着手しました。

別子全山を旧のおおとした姿にして
 之を自然にもどさなければならぬ

殺気立った暴動や争議を収めるに当たり、かごに乗らずよく歩き、ある時は新居浜にくんだり、採鉱夫や製錬夫の声によく耳を傾けました。こうして対話・会話を一年で収める一方、着任早々に新居浜製鉄所の閉鎖、「えんとつ山」の山根製錬所の閉鎖、山林課の再設置(住友林業株式会社の前身)や、煙害対策を根本的に解決すべしと、四阪島への製錬所の統合移転を推し進めたのです。

五ヶ年の跡見返れば雪の山(伊庭貞剛)
 月と花とは人に譲りて(返句…品川彌二郎)

大正一五年(一九二六)没。享年八十歳。近江八幡市の伊庭家墓所に眠る。禅修行の道にも通じた「徳」の人でした。

一部、末岡照啓氏(広瀬歴史記念館名誉館長 著「伊庭貞剛小伝」引用

馴染みの薄い言葉、ご存知でしたか?

老人の跋扈(ばこ)
 老人がやたら勢力を振るつこと
 逆名利君(ぎゃくめいぎん)
 上司の命令に逆らっても上司の利益になるようなことをすること
 坂本素源の(はっぱんそげんてき)
 根本的に白紙の状態に戻って
 丈夫(ますらわ)
 力強く逞しい勇気のある男
 あかがね(銅)
 銅のこと
 鋪着(つきせ)
 鉱山で銅を掘るときに命をかけて作業する意味でまことっている白い作業着
 石頭(せつご)
 鉱山で銅を掘るときに使う道具
 涅槃門(ねはんもん)
 死への門

